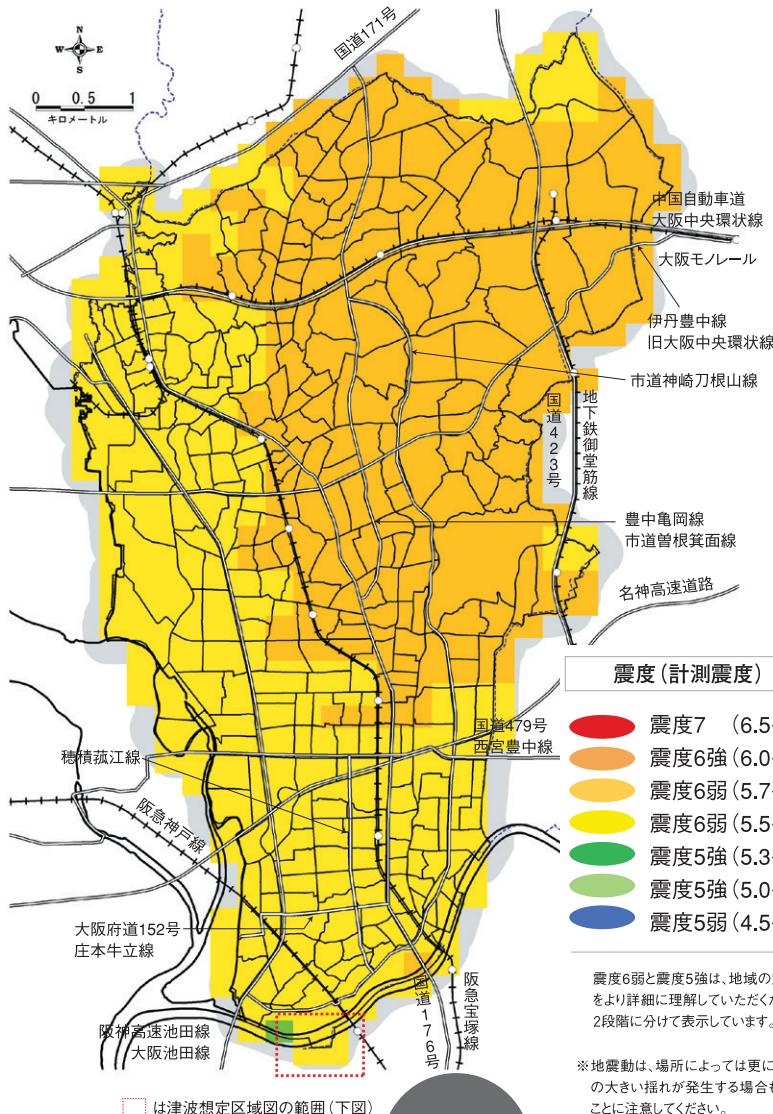


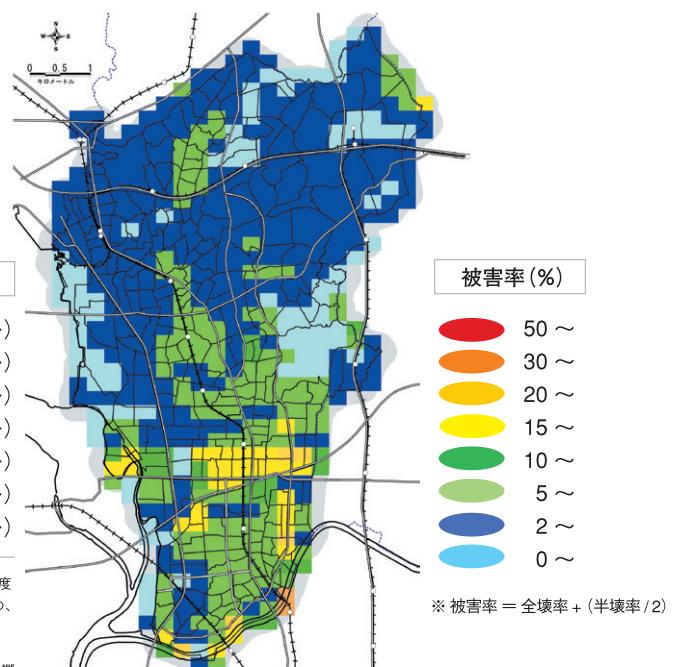
# 豊中市をとりまく地震環境



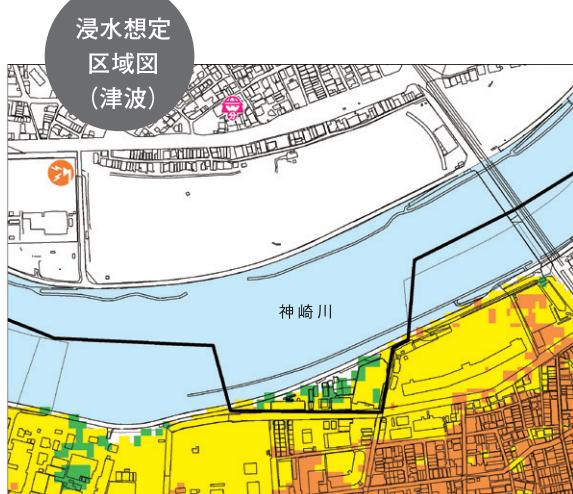
想定される  
震度

## 海溝型地震(南海トラフ)

- 平成25年度(2013)第4回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会(大阪府)が公表した地震被害想定結果を表したものです。
- 豊中市では、震度5強から震度6弱のゆれが予想されます。
- 直下型地震と同様に、建物被害は、建物構造や地盤状況などによって被害の大きさが異なります。どの地域にも大きな被害を受ける危険性が潜んでいることに留意してください。



建物被害の  
危険性



豊中市最南部に1.0m未満の  
浸水区域が想定されています。

ただし、浸水域や浸水深は、津波による災害の発生範囲を決定するものではなく、着色されていない区域が必ずしも安全というわけではありませんので、注意してください。

## 想定される被害

- 建物は揺れが大きいほど、液状化が激しいほど、そして古いものほど、大きな被害を受けやすくなります。また、建物の被害が大きいほど、人的被害や火災発生率も増加する傾向があります。
- この被害想定は、阪神・淡路大震災から得られた教訓や最新の研究成果にもとづき、「想定される地震の揺れの大きさや液状化の程度など」と「現在の建物や人口の分布など」を重ね合わせて算出したものです。

### 直下型地震

建 物 被 害	全壊棟数と発生率			半壊棟数と発生率		
	木造	非木造	合計	木造	非木造	合計
上町断層帯地震	18,506 (37.5%)	1,218 (6.4%)	19,724 (28.8%)	12,309 (24.9%)	2,475 (13.0%)	14,784 (21.6%)
六甲・淡路島断層帯地震	15,801 (32.0%)	1,012 (5.3%)	16,813 (24.6%)	12,473 (25.3%)	2,323 (12.2%)	14,796 (21.6%)

人 的 被 害	死者数			負傷者数			重傷者数(負傷者の内数)		
	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
上町断層帯地震	784	508	548	6,248	4,183	4,332	330	226	231
六甲・淡路島断層帯地震	548	351	370	6,659	4,567	4,703	351	245	249

火 灾	全出火件数			炎上出火件数		
	3日			1日		
	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
上町断層帯地震	34	53	56	23	37	39
六甲・淡路島断層帯地震	28	44	47	18	29	30

平成19年度(2007)調査

地震が発生する時間帯

- 早朝:深夜からの就寝中の時間帯
- 昼間:日中の活動の平均的な時間帯
- 夕刻:通勤・通学者が多く、火気使用率も高い時間帯

※3日、1日、1時間は地震発生後の期間を示す

### 海溝型地震

建 物 被 害	全壊棟数と発生率			半壊棟数と発生率		
	木造	非木造	合計	木造	非木造	合計
南海トラフ	991 (1.9%)	69 (0.3%)	1,060 (1.4%)	6,609 (12.7%)	337 (1.3%)	6,947 (9.0%)

※揺れと液状化による全壊棟数と半壊棟数

人 的 被 害	死者数		負傷者数		重傷者数(負傷者の内数)	
	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時
南海トラフ	13	16	321	420	20	20

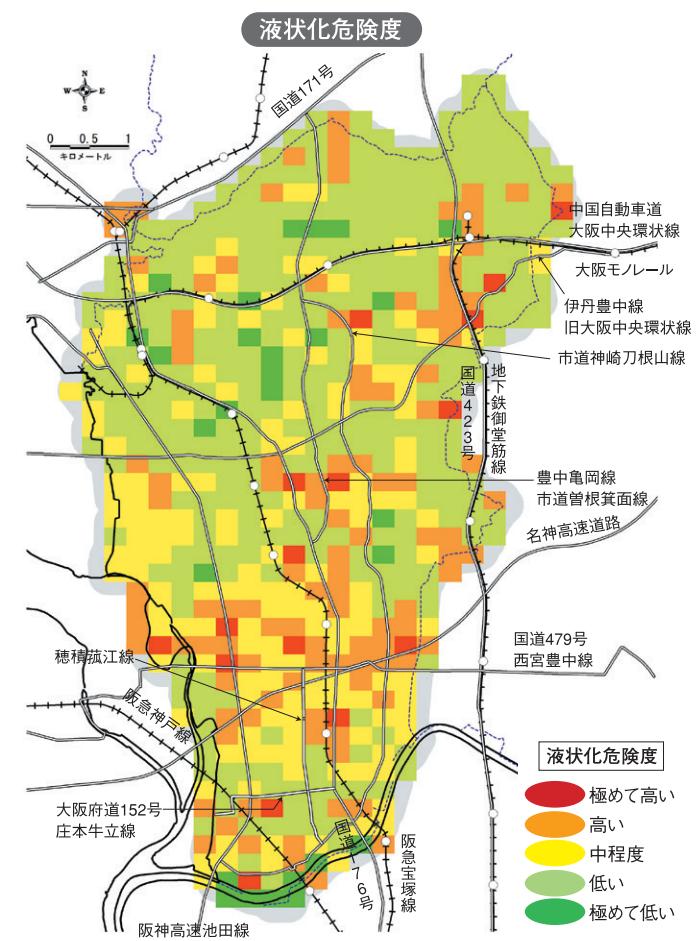
※建物倒壊のみによる人的被害

火 灾	全出火件数			炎上出火件数		
	夏12時	冬18時	夏12時	冬18時		
南海トラフ	9	11	1	1		

※平成25年度(2013)第4回南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会(大阪府)資料

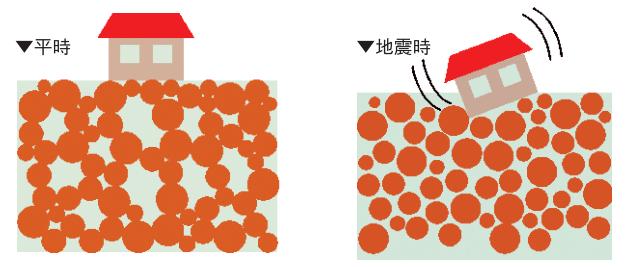
## 液状化の危険性

- 液状化現象は比較的小さな地震でも発生しやすく、建物を傾けたり、ライフラインなどに多大な被害を及ぼしたりする要因となります。
- 図は地域の液状化発生の危険度を示しています。



### 液状化現象とは

液状化現象は、緩くたい積した砂層や土砂で埋立てられた地盤に、地震の揺れが作用することによって発生します。この現象は、その名のように地盤が液体状になる現象で、地盤のずれが建築物や土木構造物に被害を誘発します。



液状化発生のイメージ(地盤と建物の縮尺は異なっています)